

「イエス様の本当の姿」

～限定された招待客～

「御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。」

ヘブル人への手紙1章3節

「2016年秋のチャペルコンサート」が素晴らしい主の祝福の中で滞りなく開催できたこと、愛する皆様のお祈りとご奉仕のお陰であると心より感謝致します！

初めて教会に来られる方々が、その大きな抵抗を乗り越えて、教会に足を踏み入れること。また、集会中、参加された方々の心が開かれるかどうかという戦いがいつも私の心の中にありますが、それは、大いに緊張するものです。

今回の集会は、チェロを弾いているポーマン先生の顔がイエス様のように見えてきたとある兄弟がおっしゃっておられましたが、そう感じたほどの素晴らしい時間だったと思います。しかし、もし本当にその場に主イエス様が目に見える形で現れたならば、初めて教会に来られた方々はすぐその場で主を信じ受け入れたであろうか？ そんな信じられないような素晴らしい状況でも、きっとその瞬間で決断することは中々難しいと思います。

本日の聖書箇所、単純に私たちが考えると、イエス様はご自身の本当のお姿をすべての人々にお見せすれば良かったのではと思ってしまうのですが、実際には弟子たちのみで、しかも、限定された3人だけでした。しかも、出会って共に生活してから数年経ってからでした。もし、すべての人々に制限なくご自身をお示しになったとしたら、きっと素直に人々が受け入れないことをご存知だったのだと思います。

新しいスーパーマンを観ました。バットマンと闘う映画でしたが、その中でスーパーマンは「神」であり、バットマンは「人」である、「神vs人」という内容。スーパーマンは人類を救うためにその超人的な力を用いてめっちゃくちゃに働きますが、次第にそのスーパーヒーローに難癖をつける人々が現れるようになります。人類にはスーパーマンは必要ないと結論づける裁判が開かれようとしていました。スーパーマンは“もうヒーローという使命をやめてしまおうか”と苦慮します。そのように人間は神をそのまま受け入れることが難しいとこの映画は教えているように感じました。だからこそ、イエス様は限定された3人にだけ本当のお姿をお見せになりました。そして、教会時代になり、彼らが福音を伝えていくときにそのお姿が力となって人々に語り掛けるようになったことでしょう。今も私たちの内におられるこの力強いお方、主をもっともっとさやかに明らかに伝えたいと強く願います。次は12月25日のクリスマスです。主がお生まれくださったその日、そのお誕生を一人でも多くの方々と共にお祝い致しますよう！